

例会報告

第2622回例会報告議事録

日時 令和2年10月13日（火曜日）

場所 ハート柏迎賓館

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「我らの生業」

ゲスト：なし

ビジター：なし

S.A.A.: 小池喜之

会長挨拶

村越会長



本日はZOOMで小野会員、小谷野会員、塩毛会員が参加されています。ありがとうございます。

先週の例会後に出欠確認のファックスが届いたと思います。

1つは11月6日(金)の情報研修会。もう1つは12月15日(火)の55周年記念例会です。

55周年記念例会に関しましては、この時期ですので、今回は家族は不参加ということでお願いします。

理事会報告です。

11月6日(金)の情報研修会は11時半～登録開始、12時～食事、12時半～合同例会、13時10分～情報研修会となります。

情報研修会の卓話は柏西RCの水野会員のお話になります。その後、各クラブの研修リーダーの方から「理想のロータリークラブとは」というテーマでお話していただきます。木村直前会長にもお願いしているのですが、調整中です。

入会5年未満の会員の方にぜひ参加していただきたいとのことです。会場のキャパが密になってしまうとのことで、ベテラン会員の皆様は今回はお休みいただいても大丈夫だと思います。

55周年記念例会についてです。

特別会員の星野我孫子市長と、卓話は海老原清治さん、その他11グループの鈴木ガバナー補佐、森市補佐幹事、歴代会長等もお呼びしたいと思っています。

10月中旬に開催案内をお送りします。人数が40人を超えますと大きな部屋を確保しなければならないので人数確認を早くしたいと思い案内が早くなります。

例会をスクール形式ではなく円卓で広い会場で行えたら、と理事会でお話ししたのですが、大きい部屋だと毎回1万円出るとのことで予算的に厳しいため、もう少しこの会場でスクール形式でやりたいと思います。

我孫子ロータリークラブのFacebookを依田クラブ管理委員長の方で立ち上げていただき、情報発信をしていきたいと思っています。

以上が理事会報告です。

地区の方から公表されたガバナーノミニージェグネートが発表されました。現在が漆原ガバナー、ガバナーエレクトが千葉RCの梶原等さん、ガバナーノミニージェグネートが松戸RCの小倉純夫さんで、2023-24年度のガバナーノミニージェグネートは千葉若潮RCの鶴沢和広さんに決定したそうです。昭和32年生まれで63歳くらいの方です。

親睦委員会報告

柳田委員長



特にございません。

出席委員会報告

依田会員(代理)



25名(出席免除者含む)出席(全員で32名)出席率78.12%

業務による欠席者：荒井会員、石原会員、今井会員、日暮会員、福武会員、前田会員、湯下会員



特にございませぬ。

卓話

服部会員



久しぶりに卓話をやらせていただきます。

今週の週報のニコニコの服部会員の欄をぜひご覧いただきたいと思ひます。ゴルフのレッスンに通い始めたのはロータリーに入会した年なので約8年前なのですが、ようやく115位から80位に到達しました。これも皆さんのご支援の賜物と思ひております。

読書の秋、文学の秋、古典の秋ということで今日は百人一首についてお話をしたいと思ひます。

このところ、コロナ禍もありまして、週5日のうち2日が暇です。昨日は暇だったので、お配りしたものを作りました。

百人一首というのはどういうものか、平安時代によく行われた歌合わせについて、最後に私が好きな百人一首の歌をご紹介しますと思ひます。

百人一首は飛鳥時代から鎌倉時代初期に活躍した百人の歌人達の和歌集です。選んだのは藤原定家だろうと言われております。

藤原定家は平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した歌人で貴族です。身分を表す位階は正二位(しょうにい)、ついていた官職の最高位は権中納言で、大変高貴な人だったということです。

百人一首ができた背景には依頼人がいたとされております。依頼人とされているのは、宇都宮頼綱という鎌倉時代初期の有力な御家人でした。頼綱が京都嵯峨野に立てた別荘の襖に和歌を書いた色紙を貼りたいということで、定家に頼んだと言われております。

定家の息子と頼綱の娘が結婚していたので、定家から見ると息子の舅からの依頼ということになります。定家は自分の住まいである小倉山荘で歌を選び色紙に揮毫して頼綱に渡しました。

頼綱は謝礼は幾らばかりかと定家に言ったところ、定家はえらい高い値段をふっかけたそうです。頼綱が「少し負けてくれ」と言ったら、定家は「負けられない」と。なぜかと聞いたら「私の名前は藤原定家だ。定価でしか売らない」

すいません。値段の話は作り話です。

百人一首の歌のジャンルについてです。

恋の歌が43、四季の歌が32。恋と四季の歌が2大テーマで大半を占めております。百人一首に定家の歌も含まれておりますが、その歌も恋の歌です。

歌人の属性についてです。

男性が79、女性が21名です。

男性は貴族の中でもエリート中のエリートである公卿が28、下級貴族が28となっております。6位以下の人は貴族とは呼ばれません。地下(じげ)の人は下級貴族に含まれます。

女性は宮廷に仕える女官である女房が17で一番多いです。皆さんご存知の小野小町、紫式部、清少納言はみんな女房です。

定家がどういう人だったかをご説明したいと思ひます。

定家は平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した歌人です。平安時代で30年、鎌倉時代で50年生きた方です。

後鳥羽上皇に命じられて「新古今和歌集」の編纂に携わったり、和歌の研究書もたくさん残してあります。「明月記」という日記もつけていて、その時代の随一の歌人、和歌の研究者でした。

定家の性格は非常に激しい性格の人だったようです。非常に頑固な人で、出世のためには手段をいとわない人だったそうです。

定家が23歳の時、11月に新嘗祭という神事があり、儀式の最中に源雅行という年下の貴族に侮辱されて、そばにあった松の木でできた松明で相手の顔面をなぐりつけるという事件を起こしています。この為、免職されてしまいますが、父親が後鳥羽天皇に赦免を願ひ出る歌を送って赦免されたそうです。

出世には大変貪欲で、土地の権力者に領地をプレゼントして71歳の時に中納言まで登りつめたそうです。(次ページへ続く)

百人一首には時代の古い順の方から番号が振られています。一番古いのが天智天皇で、100番は鎌倉時代に生まれた天皇である順徳院です。

天智天皇から順徳院まで500年位の時間の幅があるのですが、5年刻みで歌人が登場するというイメージになります。

1番の天智天皇の歌は「秋の田のかりほの庵の苫(とま)をあらみ わが衣手は露にぬれつつ」です。

「秋のたの小屋の屋根を覆っている苫の目が荒いので、私の袖は夜霧にしきりに濡れている」という意味です。田の仮小屋は寝ずの番が待機する小屋なので天皇が夜通しいるはずがないし、万葉集によく似た歌が詠み人知らずで載っているの、この歌は実は天智天皇の歌ではないと言われていたのですが、定家の時代には天智天皇の歌と言われていたのだと思います。

100番の順徳院の歌は「百敷や古き軒端のしのぶにも なほ余りある昔なりけり」です。

「宮中の古い軒端の忍ぶ草を見るにつけて、偲んでも偲びきれない。皇室が栄えた昔よ」という意味です。軒端というのは雨が降ると一番最後まで湿気がこもる所で、そこに草がはえているというのは手入れが行き届いていないということを暗示しています。「しのぶ」という言葉は、しのぶ草と昔を偲ぶという両方の意味を持たせた、掛詞という技法が使われています。

天智天皇という方は即位する前は中大兄皇子という名前で、当時、権勢を誇った蘇我入鹿を暗殺して大化の改新を行った人です。大化の改新の成果としてはいくつかあるのですが、全国を60余りの国に分けて、朝廷から国司をつかわせて地方を納めさせ、天皇を中心とする中央集権国家の礎を築きました。

その国の形はその後、奈良時代、平安時代と500年位続きましたが、順徳院の時代はすでに鎌倉時代になっていて、政治の実権は天皇から幕府に移っています。

1番が国の形を作った天皇の歌で、100番が国の形が変わって、昔はよかったなと嘆いている歌、というのは、ちょっとうまい演出だと思います。

定家は百人一首を選んだ時は出家をしていたかもしれないので、ひょっとすると諸行無常、栄枯盛衰のはかなさというものを、この1番と100番で表現したかったのかもしれない。

歌合(うたあわせ)というものについてお話しします。

歌合というのは天皇や親王が主催した歌の会のことです。平安時代に始まり、鎌倉時代に頻繁におこなわれました。

歌人を左右二組にわけて、その詠んだ歌を一番ごとに比べて優劣を争う会です。お題が会の1ヶ月くらい前に歌人に出され、そのお題に沿って会に臨みます。

最初に左方の歌が読み上げられ、次に右方の歌が読み上げられます。その後、各チームの応援をする念人(おもいびと)という人が登場し、歌の解説をして、良いところを褒めて、相手の欠点を指摘します。

左方、右方、それぞれの念人の意見が出尽くした所で、判者(はんじゃ)が勝ち負けの判定をします。判者はその時代の大御所と呼ばれる人が務めていたということです。判者は勝ち負けの理由も言います。その理由を判詞(はんし)と言います。

平兼盛の40番、壬生忠見(みぶのただみ)の41番の歌は戦った歌同士です。

平兼盛も壬生忠見も平安時代中期の優れた歌人でした。当代きっての歌人の対決でした。

40番「しのぶれど 色に出でにけり わが恋は 物や思ふと 人の問ふまで」の意味は「人には気付かれないように心に秘めてきたのに、顔や表情に出てしまっているようだ、私の恋は。悩み事でもあるのかと人に尋ねられるほどである」です。

この時のお題は「しのぶ恋」だったそうです。

41番「恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり 人知れずこそ 思ひそめしか」の意味は「恋をしているという私の噂が早くも世間に立ってしまった。人に知られないように思いはじめていたのに」です。

この歌合は天徳4年(960年)に行われた天徳内裏歌合と呼ばれる有名な歌合で、克明な記録が残っています。主催したのは村上天皇で、判者は藤原実頼(さねより)、判者の補佐は源高明(たかあきら)でした。20番勝負で行われました。夕方4時頃に始まって、翌朝まで続いたと言われています。

平兼盛と壬生忠見の歌が読み上げられた後、藤原実頼は天皇に「いずれも秀作につき甲乙つけがたく、この勝負は引き分けにしたいと存じます」と申し上げたところ、天皇に「引き分けはならん」と言われ、実頼は困って判者補佐の高明に声をかけたところ、ひれ伏すばかりで一声も発しない。いよいよ進退きわまったその時、村上天皇が「しのぶれど」とつぶやいているのを高明が聞きつけ実頼に伝えたところ、平兼盛の勝ちにすることを決めたと伝えられています。

壬生忠見は地下と呼ばれる身分の低い官吏で、生活が苦しくて歌の下手な貴族に頼まれ歌を代作して、その謝礼を生活の足しにしていたそうです。この歌合で勝って出世の手渡りをつかみたいと

思っていたのですが、接戦の末に敗れて落胆のため食事が喉を通らなくなり、最後は病で悶死したと言われています。

この時代、歌というのは嗜みというようなものではなくて出世や人生を左右するくらい重いものだったようです。

好きな歌を紹介したいと思います。

56番の和泉式部の「あらざらむ この世のほかの 思ひ出に 今ひとたびの 逢ふこともがな」意味は「まもなく去っていくこの世ですが、あの世の思い出として、もう一度抱かれないものですか」です。

和泉式部は才色兼備で、いろいろ男性との噂が尽きなかった人でした。橘道貞の妻で小式部内侍の母です。小式部内侍は母親に似て和歌が上手でした。

小式部内侍が歌会に呼ばれました。同じ会に呼ばれた64番の権中納言定頼が小式部内侍の部屋の前を通る時に廊下から「歌はどうかされるのですか。母君には使いは遣わしましたか。使いは戻ってきましたか」とからかいの声をかけました。小式部内侍が歌がうまかったので、母親の和泉式部が代作しているという疑惑があったのです。小式部内侍は廊下に半分身を乗り出して定頼の着物の袖をつかんで歌ったのが次の歌です。

60番「大江山 いく野の道の 遠ければ まだふみもみず 天の橋立」

意味は「大江山を越えて生野を通って行く道は遠いので、まだ天の橋立に行ったこともなければ、母からの手紙も見ていません」です。

掛詞が使われた技巧的な歌を即興で作った小式部内侍に驚いた定頼は返歌をすることもできず、あわてて逃げて行ったそうです。この一件で小式部内侍の代作疑惑も晴れ、定頼は評判を落とすということでした。

この辺で終わりにしたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

開会の言葉

村越会長

改めまして服部会員の引き出しの多さと言いますか、まだまだ知らないことがいっぱいあるんだと思いました。またいろいろお話しを聞きたいと思います。卓話ありがとうございました。

以上を持ちまして2622回の例会を閉会いたします。点鐘いたします。

ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
村越会長	服部さん卓話ありがとうございました。	1,000円
梶会員	服部会員ベストスコアおめでとうございます。	1,000円
上村文明会員	卓話ありがとうございました。	1,000円
上村英生会員	服部会員ベストスコアおめでとうございます。 百人一首の卓話も面白かったです。	1,000円
木村会員	卓話 有難うございました。	1,000円
小池会員	卓話ありがとうございました。	1,000円
佐藤雅教会員	久しぶりの百人一首よかったです。	1,000円
三枝会員	佐藤の後任の三枝です。今後ともよろしく願います。	1,000円
鈴木会員	服部会員 素敵なお話でした。	1,000円
瀧日会員	服部会員 大変興味深いお話をありがとうございました。	1,000円
服部会員	卓話の機会をいただきありがとうございました。	2,000円
藤本会員	服部先生 何時も楽しいお話しありがとうございました。 財布を忘れ小銭で失礼します。	1,000円
柳田会員	百人一首の話とても楽しかったです。 ありがとうございました。	1,000円
依田会員	服部先生 卓話ありがとうございました。 ZOOMトラブルしました。すいません。	1,000円
米田会員	服部会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
当日計		16,000円
今期累計		183,000円

今週の表紙「子之神大黒天」千葉県我孫子市寿2丁目27番10号

ネズミを使徒とする大黒天がまつられています。

源頼朝が行脚の途中で我孫子の近くで脚の病にかかった折、夢の中に白ネズミに乗った白髪の老人が現れ、ヒイラギの葉で頼朝の足を癒したと伝えられ、足腰の病にご利益があると言われる神社です。

毎年10月に行われる柴燈護摩(さいとうごま)火渡りは一般の人も参加できます。

ロータリーの友事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。